

16春闘勝利に向けて⑦

技能実習制度、戦略特区の悪用NO!

マーチ・イン・マーチ2016

移住労働者の使い捨てを許さない!

2016年3月6日（日） 上野公園・水上音楽堂

◎13：00～ コンサート集会◎15：30～ マーチ出発

移住労働者の生活と権利のための行動

バブル期の日本が単純労働力不足をオーバースティの「外国人出稼ぎ労働者」で補っていた1994年、はじめて移住労働者が、労働条件の向上と権利獲得を訴え、春闘を取り組みました。以来、毎年3月に開催する、移住労働者の生活と権利のための行動がマーチインマーチです。

移住労働者の課題は日本人労働者の問題

いわゆる3K(キケン、キタナイ、キツイ)労働、労働基準法や最低賃金法も守られない職場、解雇自由、非正規・有期の不安定雇用、派遣切り、社会保障からの排除…移住労働者が訴えてきた劣悪な労働環境は、つねに日本人労働者の問題を先取りしてきました。

政府の「成長戦略」と外国人・移住労働者

いまも日本政府は、少子高齢化の労働力不足を外国人労働者で補う政策を進めています。例えば、人権への配慮が懸念される中で、「技能実習制度」を見直し拡大して、東京五輪や震災復興に必要な労働力として受入れようとしています。また、「国家戦略特区」では外国人家事労働者の受入れを開始しました。安倍政権の徹底した労

働規制緩和は貧困・格差を広げています。「成長戦略」は労働者を使い捨てる政策にほかなりません。

そのような中、私たち労働組合には、移住労働者とともに、労働者の権利侵害や雇用・労働基準破壊を許さず闘うことが求められています。

差別排外主義をゆるさず多文化共生社会へ

日本に定住した移住労働者は、世界中のあらゆる国から来ています。日本社会は、すでに多民族の人々が暮らし、多くの文化が集まる社会として国際的に見られています。

しかしながら、日本社会は、豊かな多文化を育む土壌がまだ肥沃ではありません。外国人を排除

するヘイト・スピーチが街に聞こえ、マスコミやネットに差別的な言論が横行しているのです。

労働力不足に直面した政府や財界が、移住労働者を抜きに経済を考えられなくなっているいまこそ、私たちは差別排外主義を許さず、移住労働者の人権を守る労働運動が必要だと考えます。

移住労働者とともに生きよう！

私たちは、移住労働者の生活と権利のための運動によって、移住労働者とともに働き、ともに生きる「多文化・多民族共生社会」へと日本が切り開かれるものと信じています。

日本で働くすべての労働者とともに闘い、多民族・多文化共生社会をつくるため、多くの労働者にマーチ・イン・マーチへの参加を呼びかけます。

マーチインマーチ2016実行委員会

